

平成20年11月6日
千葉県県土整備部河川環境課
電話043-223-3155

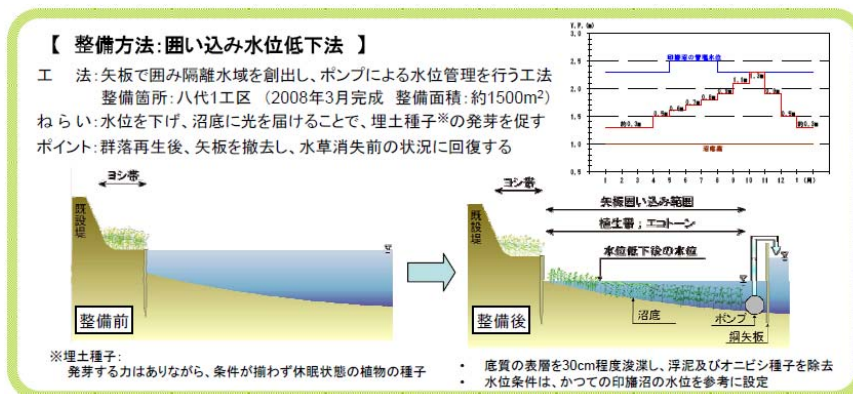
印旛沼で消失した水草の再生に成功 ～印旛沼の水質浄化～

印旛沼はかつて、豊かで清らかな水を湛え、様々な生き物が生息し、農業を支え、豊かな漁場を提供してきました。現在も、県民の貴重な飲料水、農業用水、工業用水として利用されています。

しかし、昭和30年代からの高度経済成長に伴う都市化と、飲料水および工業用水の確保を目的とした貯水池化により水質が悪化し、「水生植物の宝庫」といわれた印旛沼の水草は徐々に減少し、近年ではほぼ消失してしまいました。

千葉県では、平成14年1月に「印旛沼水質改善技術検討会」を発足し、印旛沼の水質改善を進めるための効率的な事業・施策を検討してきました。今回の水草の再生は、沼本来の自浄作用に着目し、植生による水質浄化を目指した取り組みの一環として、沼内に設けた水域において、消失した沈水植物の再生に成功したものです。

1. 事業名
統合河川環境整備
2. 整備箇所
千葉県成田市八代地先（成田整備事務所管内）
3. 整備目的
印旛沼における沈水植物の再生
4. 整備方法
囲い込み水位低下法



5. 整備期間
平成20年1月～平成20年3月
6. 成果

印旛沼の沼底の埋土種子から、かつて印旛沼に繁茂していた沈水植物の再生に成功しました。再生した沈水植物の中には、ムサシモ、ハダシシヤジクモ、オトメフラスコモなどの、全国的にも貴重な種も確認されました。（【別紙－1】参照）



問い合わせ先

千葉県県土整備部河川環境課
担当：岩井、林、御園生

電話043-223-3155

印旛沼で消失した水草を再生しました！！(植生帯整備の成果報告)

かつての印旛沼には多くの水草が茂り、恵み豊かな生態系の基盤として機能していたと考えられます。しかしながら、現在、水草の多くは失われ、沈水植物はほぼ消失してしまいました。

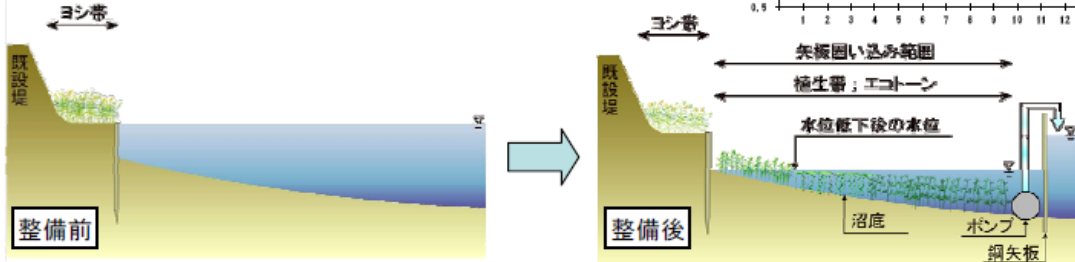
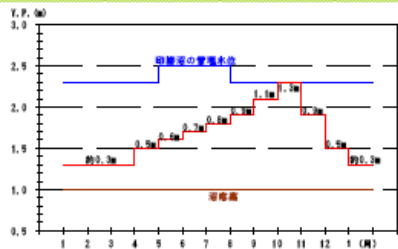
千葉県では印旛沼水質改善技術検討会(座長:虫明功臣福島大学教授)を設置し、沼本来の自浄作用による水質浄化を目指した取り組みの一環として、沈水植物をはじめとする水生植物群落の再生を目的とした、植生帯の整備を実施しています。

その中の「八代1工区」で、沈水植物群落の再生に成功したものです。



【 整備方法:囲い込み水位低下法 】

工 法:矢板で囲み隔離水域を創出し、ポンプによる水位管理を行う工法
 整備箇所:八代1工区 (2008年3月完成 整備面積:約1500m²)
 ねらい:水位を下げ、沼底に光を届けることで、埋土種子※の発芽を促す
 ポイント:群落再生後、矢板を撤去し、水草消失前の状況に回復する



- ※埋土種子:
 発芽する力はあるながら、条件が揃わず休眠状態の植物の種子
- 底質の表層を30cm程度浚渫し、浮泥及びオニビシ種子を除去
 - 水位条件は、かつての印旛沼の水位を参考に設定

【 成 果 】

沼底に眠っていた埋土種子から、多くの沈水植物の発芽を確認しました。中には全国的にも貴重な種である、ムサシモ・ハダシシャジクモなども確認されました。

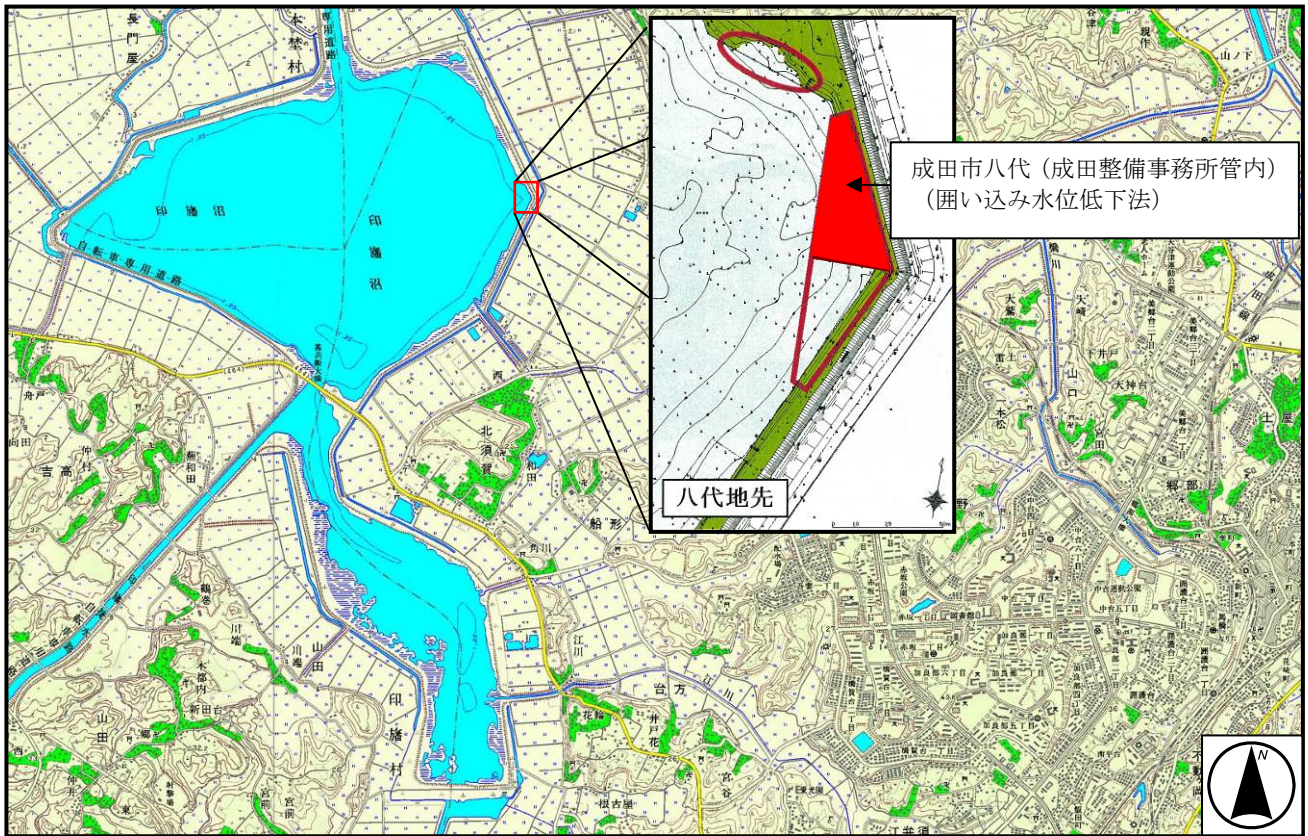
今後は、沈水植物の生育状況を確認しながら矢板を撤去し、印旛沼の植生再生の基盤となることを目指します。



八代1工区での主な確認種(2008年9月状況)			
生育区分	和名	重要種選定	
		環境省 レッドリスト①	千葉県 レッドリスト②
沈水	ムサシモ	絶滅危惧ⅠA類	重要保護生物
	ハダシシャジクモ	絶滅危惧Ⅰ類	重要保護生物
	オトメフラスコモ	絶滅危惧Ⅰ類	重要保護生物
	トリゲモ	絶滅危惧Ⅱ類	要保護生物
	シャジクモ	絶滅危惧Ⅱ類	
	イバラモ		重要保護生物
	オオトリゲモ		重要保護生物
	コウガイモ		重要保護生物
	ササバモ		一般保護生物
	エリナガシャジクモ		
浮葉	フラスコモ属の一種		
	ウキクサ		
	オニビシ		
	ハス属の一種		
沈水~抽水	キクモ		
抽水	ミズアオイ	準絶滅危惧	要保護生物
陸域(湿性)	カンエンガヤツリ	絶滅危惧Ⅱ類	一般保護生物
	カワヂシャ	準絶滅危惧	
	タコノアシ	準絶滅危惧	

①哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I及び植物IIのレッドリストの見直しについて(環境省 平成19年8月3日)
 ②千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト<2004年 改訂版>





整備箇所位置図



表層の浮泥の取り除き作業(厚さ30cm程度を除去)



完成直後